

# 学内六孝報

2021.2.19

no.1543



駒場祭の歴代パンフレット



志ある卓越。  東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

お世話になった方へ東大公式グッズの贈り物を  
令和のUTCC新商品集

1950年から途切れず続く不屈の祭典  
駒場祭の70年史

お世話になったあの方へ東大オフィシャルの贈り物を

# 令和のUTCC新商品

The University of Tokyo Communication Center



UTokyo Go  
CNFボールペン 各380円

植物由来の新素材を使用した  
ゲルインクで書き心地がなめらかに

このゲルボールペンインクには、当研究室で開発された植物由来のセルロースナノファイバー（CNF）が使用されています。大気中の二酸化炭素由来で、繰り返し生産が可能な植物成分からなる新規バイオ系ナノ素材の実用化の一例です。本ゲルボールペンのインクは僅かな力の作用で液体のように挙動する独自の特性があるため、筆圧がかからずに滑らかな書き心地を可能に



東京大学  
特別教授  
磯貝 明

し、インクだまりも生じません。スマートなペンデザインと大学のシンボルマークも魅力です。



UTokyo Go 鉛筆  
950円  
(5本入り)



「UTokyo Go」はスタイリッシュなデザインのオリジナル文具シリーズです。色は黒と金の2色をご用意。ペーパーパッドや消しゴムも揃っています。

陸前高田の農業再生と  
まちづくりにつながる  
ナッツ界の新星



ゴールデンピーカンナッツ(生)  
1,200円 (40g×4袋)

生産技術研究所と農学生命科学研究科が協働で、日本と世界の農業的課題に取り組んでいます。そのひとつがピーカンナッツによる農業再生と地方再生プロジェクトです。これは、岩手県陸前高田市、ピーカンナッツを輸入する㈱サロンドロワイヤルとの共同で立ち上げたプロジェクトで、東日本大震災で被災した陸前高田市を拠点にその復興と農業振興をめざしています。より多くの人にピーカンナッツのおいしさと魅力を知ってもらえればと思います。



生産技術研究所  
特任教授  
沖 一雄



感謝の気持ちを伝えるギフトに最適なアイテムです。卒業年度とお名前の刻印も承ります。(加工期間:約10日間)

カフリンクス  
27,500円



チタンタンブラー  
11,000円



チタンは注目のレアメタルで、生産技術研究所などで研究が進みます。保温と保冷に優れ、飲料を長く楽しむことができます。

ネクタイ 各柄 12,000円



柄はスクールカラーの淡青やキャンパスを代表する樹木である銀杏をあしらったもの。剣先の裏には大学のロゴが入っています。

社会とのコミュニケーション拠点として2005年に誕生したUTCC。研究成果を活用した商品やUTokyoマークの公式グッズを販売していますが、長引くコロナ禍の影響で苦勞しています。ここは構成員の出番ではないか、との思いから、改元以降の新商品を一挙掲載し、商品開発に関わった3先生の推薦コメントも掲載しました。本郷赤門横のお店は平日11時～16時に来店OK。ネットショップはいつでもOKです。

⇒ [utcc.u-tokyo.ac.jp](http://utcc.u-tokyo.ac.jp)



**生態調和農学機構産米を使用  
麹菌のビタミン豊富な甘酒**

**博士の昔こうじ甘酒**  
580円 (350ml)

『麹菌』は日本食の味に欠かせない微生物。麹菌により作られる甘酒はビタミンが豊富で、江戸時代には夏の暑さのなか滋養強壯のため飲まれていました。東京大学での百年以上の醸造微生物研究の伝統を受け継ぎ、私たちは麹菌がビタミンをつくる仕組みを解明しました。「お酒の神様」坂口謹一郎名誉教授が戦中までに収集した麹菌を使用して、その歴史の奥深さとともに麹菌の良さを広めたいという思いでこの甘酒を世に送り出しました。



農学生命科学研究科  
特任准教授  
**丸山潤一**

**印傳煉瓦柄  
ペンケース**  
各**4,620円**

鹿革に漆で模様をつける手法である単工芸の印傳を用い、UTCCの煉瓦をイメージした小物シリーズ。UTCCの建物は、1910(明治43)年に人力車車庫として建てられた、本郷キャンパス内では最古の建築物です。印鑑ケース、小銭入れ、メガネサックもあります。



**研Q室のヨーグルト  
タブレット**

1,000円(45粒入り)

薬学系研究科の関水久名誉教授がカイコのメカニズムを活かした独自の測定技術で約1万株の乳酸菌からスクリーニングして得た「乳酸菌11/19-B1株」。キウイフルーツの果皮から分離した菌種で、高い免疫促進活性が確認されています。「研究を世のために活かしたい」との想いで活動していた関水先生と福島の乳業メーカーとの出会いから生まれたのが「研Q室のヨーグルト」。かねてより人気のこのシリーズに、持ち歩きに便利なケース入りのタブレットが加わりました。1日1～3粒を目安に嚙んでお召し上がりください。

キウイ由来の乳酸菌を使ったヨーグルトの錠剤タイプ

**本郷建物柄  
マグカップ**

1,980円



安田講堂、総合図書館、赤門といった本郷キャンパスを代表する建物をかわいくデザイン。お客様が東大を訪れた際のお土産に好適。



**ハンドトリートメント**  
1,200円 (50g)

ミキモトグループ創業者御木本幸吉は、帝国大学臨海実験所の箕作佳吉教授の研究指導のもと、世界で初めて半円真珠の養殖に成功し、真円真珠の養殖にも成功。真珠養殖は日本が誇る産業に成長しました。その後、農学生命科学研究科の渡部終五名誉教授らが、真珠層形成メカニズムに関する研究に着手、真珠形成に関わる細胞内に存在するコラーゲンの特性についても理解を深めました。そしてパールコラーゲン®の保湿効果は真珠のような肌を保つ化粧品に結実。令和に入り、手の潤いを保つトリートメントと紫外線から肌を守るプロテクターが新たに登場しました。

保湿に優れたパールコラーゲンのコスメ



**UVプロテクター**  
1,800円 (40ml)

**安田講堂設計図  
スカーフ** 12,000円

創建時の手書きの図面を用いたスカーフ。インクのにじみやスタンプのかすれも再現しています。座席や梁の図も使い、安田講堂の知られざる一面を垣間見することもできます。

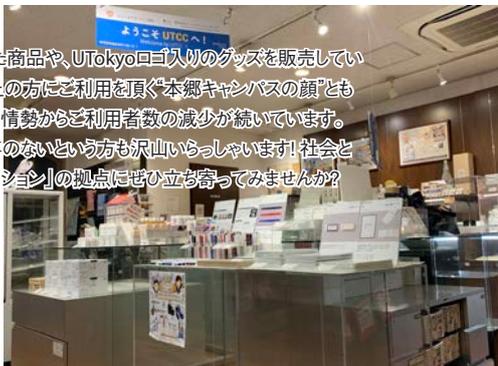


**本郷建物柄  
クリアファイル** 各**350円**



**店の  
スタッフ  
より**

当店では本学の研究成果を活用した商品や、UTokyoロゴ入りのグッズを販売しています。OPEN以来、年間約6万人以上の方にご利用を頂く本郷キャンパスの顔とも言える赤門横の施設ですが、昨今の情勢からご利用者数の減少が続いています。知ってはいるけれどまだ利用された事のない方も沢山いらっしゃいます! 社会と東大をつなぐ「双方向のコミュニケーション」の拠点にぜひ立ち寄ってみませんか?



1950年から一度も途切れずに続く不屈の祭典

# 駒場祭の70年史

※1 時事風刺を題材にした寮の部屋の装飾。

※2 1954年には、3日間の一般公開のための休講を求める駒場祭委員会と教養学部との間で交渉が難航し、あやも中止となる直前で学生側が折れる形で何とか開催に。この後、東大紛争以降は3日間の開催が定着しますが、その後も「準備と片づけのためにどれだけ休講を設けるか」は大学と学生との交渉の争点であり続けました。

※3 この年のポスターに書かれた「とめてくれるなおっかさん／背中のおいちょうが泣いている／男東大どこへ行く」が紛争のさなかにある東大生の心情を表すものとして全国的に有名になりました。

※4 五月祭は2008年以降は企画参加費制度に戻っています。

※5 この特設ステージは長く1号館正面にありましたが、2004年に1号館前からキャンパスプラザ東側広場に移転。2019年には9号館裏に移転しました。

## 幻の第2回駒場祭パンフ

今号表紙に掲載した過去のパンフレット（プログラム）は駒場図書館や文書館柏分館などに眠りますが、欠けもあります。1951年の第2回分のみ未発見。情報求む！

公式マスコット「こまっけろ」が登場したのは2007年。委員がはっぴを着るようになったのも意外に歴史は浅く、2005年から。

## 1 駒場祭の前史

起源を遡ると、旧制第一高等学校（一高）でおこなわれていた「記念祭」という寮祭が駒場祭の前身にあたります。自治寮の成立を祝って茶話会が催され、演説、剣舞、寮歌の披露など様々な催し物が開かれ、学生、教員、卒業生が交流し、そして学内を一般に公開する機会でした。1935年に一高が本郷から駒場に移って以降も、旧制高校が廃止される直前まで開催され続けました。

## 2 記念祭構想の頓挫

駒場の地に誕生した新制東京大学の教養学部では、1949年に入学した1期生から「一高の伝統だった記念祭を教養学部でもやろう」「本郷の五月祭に対応する行事を駒場でも」という声が生まれました。しかし、初代教養学部長の矢内原忠雄が「入学して1年もたたないのに市民に発表すべき何かがあるのか」と反対し、開催は認められませんでした。矢内原は一高と一線を画した新しい大学の姿を目指していたと言われており、安易な一高文化の継承には懐疑的だったのかもしれませんが。

翌1950年にはついに開催が認められ、念願の第1回駒場祭が開催されます。しかし当時はGHQの占領下。一高記念祭の名物でもあった「寮デコレーション」※1はGHQ批判に

つながるおそれがあるとして禁止されました。日本が主権回復した1952年以降は寮デコレーションも公認され、新たに野外演劇や仮装行列も始まり、伝統のファイアーストームなども含め、駒場生の青春の祭りとして発展、駒場の年中行事として定着していきました※2。

## 3 学生運動の高まり

1960年頃から学生運動が高まりを見せ始め、駒場祭委員会でも目指すべきは反体制の駒場祭が青春祭の活動かという熱い議論が交わされるようになります。1967年には佐藤栄作首相の訪米阻止を目指す学生デモ隊が駒場祭1日目を終えた夜の駒場に集まり、1号館と900番教室を占拠しました。デモ隊は駒場祭委員会の求めに応じて退去しましたが、構内でデモ行進をおこなって来場者を驚かせたといわれます。この年、駒場祭委員会は「参加団体は大学への届出団体に限る」という従来の申し合わせを拒否し、参加団体を一任するよう求めました。大学はこれを認めず、学生と大学との信頼関係が崩れていきます。

翌1968年、東大紛争が拡大する中、教養学部でも学生が全面的な無期限ストライキに突入。駒場祭委員会と大学との交渉は決裂し、これを「勝手にやれ」という意味だと解釈した駒場祭委員会は、大学からの公認を得ないまま駒場祭を強行しました※3。



1968年の第19回はストの中、非公認で開催されました

東大の学園祭といえば本郷の五月祭が有名ですが、駒場Iキャンパスで開催される駒場祭も忘れてはいけません。1950年に始まってから一度も中断せずに続き、昨年には70周年という節目を迎えた貴重なビッグイベント。自らも学生時代に五月祭・駒場祭の実行委員を経験し、大学院では学園祭の歴史を研究しているという「ミスター学園祭」が、その研究成果を紹介します。

東大紛争の影響はついに入試の中止にまで至り、1969年は新生者が存在しない年でした。この年の駒場祭は主に2年生のみ、翌年は主に1年生のみによって担われたのです。

## 模擬店の流行と大衆化

激動の時代は、駒場祭の中身の面でも転換点でした。1969年、1号館時計台の正面に特設舞台が初めて設置され、学生団体がパフォーマンスを披露する催しが企画されます。この企画の名称「グランドフェスティバル」がステージ自体の名称として定着し、特設ステージは駒場祭のシンボルになりました<sup>\*5</sup>。

また、従来はクラスでテーマを決めて研究発表をしたり、サークルで活動成果を披露したりといった企画が中心でしたが、クラス企画で喫茶店が流行し始めたのを機に、1970年代に模擬店・喫茶店が急激に増加。近年の駒場祭の風物詩である屋外に立ち並ぶ模擬店の姿はこの頃その原型が形作られたのです。

## バブルの崩壊

長らく駒場祭の運営にかかる費用は、参加団体から徴収する参加費とパンフレットに掲載する企業からの広告収入からなり、特に後者に依存していました。平成に入ってバブルが崩壊すると、広告収入が急減し、駒場祭委員会は財政難に陥りました。そこで委員会は、参加費徴収に代え、新生から運営費を一律で納入してもらう仕組みを計画します。学生自治会などの同意を得て1993年に規約改正がなされ、翌年の入学生から段階的に駒場祭運営費の一括納入が始まりました。この制度は後に五月祭にも導入され<sup>\*4</sup>、「一部有志が参加する行事」から「ほとんどの新生者が参加する行事」への転換にも役立ったといえます。

## 新時代の萌芽

21世紀を迎える頃、新しい時代の学園祭の姿が見え始めました。駒場祭のウェブページが初めて作られたのは1997年。企画の参加登録が紙媒体での申請からウェブシステムによ

る登録になったのが2001年。2010年には駒場祭委員会がTwitterでの情報発信を始めます。駒場寮跡地の再開発が進み、キャンパスが大きく姿を変えた時代でもありました。2003年に委員会主催のオープニングやフィナーレが始まり、2006年から公式グッズが販売されるなど、財政難からの脱却と委員人数の増加もあり様々な新しい取り組みがみられました。

## 禁酒措置と火災対策

2007年の麻疹の流行、2009年の新型インフルエンザ、2011年の東日本大震災と、五月祭は何度も開催が危ぶまれ、乗り越えてきましたが、幸いにも駒場祭は開催を脅かされることなく2000年代を過ごしました。転機を迎えたのは2012年。この年から駒場祭が全面禁酒となりました。全国的に学園祭禁酒の動きが高まったことに加え、この前年に教養学部で発生した学生の飲酒死亡事故がきっかけになったと言われます。また、五月祭でのポヤ騒ぎや明治神宮外苑のイベントでの火災死亡事故などの影響で、2016年頃からは火気使用の制限が大幅に厳しくなりました。

## コロナ禍と、これから

2020年、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、駒場祭はオンライン開催に。来場者のキャンパスへの来訪は一切ありませんでした。遠方で足を運べなかった方にもコンテンツを楽しんでもらえた一方で、銀杏並木に模擬店が立ち並ぶ賑やかなキャンパスを見ることは叶いませんでした。模擬店企画は“全滅”となり、企画数は大幅に減少したものの、過去にない趣向を凝らしたクラス企画が現れ、サークル企画の活動成果発表も新しいツールを活用して多岐にわたるようになりました。

オンライン開催となった学園祭は、これまでの「場所」の概念から解放されました。キャンパスに来なくても、企画を楽しみ、出展することさえできたのです。もしかすると「本郷の五月祭／駒場の駒場祭」という構図自体が見直される日が来るのかもしれませんが。



本部総務課総務チーム一般職員  
教育学研究科博士課程

## 佐藤寛也

事務系職員として務める傍ら、大学院で学園祭の歴史を研究（修士論文は「東京大学の学園祭史：五月祭・駒場祭の起源と変遷」）。詳しくは本誌1525号のコラム「ワタシのオシゴト」もご参照を。

## どうして11月開催？

駒場祭の前身となった記念祭は、春入学となって以降は基本的に2月に開催されていました。駒場祭はなぜ11月なのか。理由は単純で、第1回委員長の手記によれば「本郷の五月祭に配慮して5月と半年の間をあける案を採用した」とのこと。2つの学園祭が半年ごとに開催されるのは偶然ではなかったのです。以降、1969年に10月開催だったのが唯一の例外で、一貫して11月に開催されています。ちなみに五月祭は戦前からおこなわれていますが、5月以外に開催されたことがこれまでに3回あります。1972年に準備が遅れて6月開催となり、2003年には施設予約の都合で5月31日・6月1日の開催に。そして昨年の五月祭がコロナ禍による延期で9月の開催（オンライン）となっています。



駒場祭の歴史についてももっと詳しく知りたい人にはこちらのYoutubeがオススメ。https://youtu.be/Riz9E\_qS1LA 佐藤さんが7本の動画で丁寧に解説、最後にはNG集もあります。



# 海と希望の学校 in 三陸

第12回

三陸を舞台に、岩手県大槌町にある大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターと、社会科学研究所とがタッグを組んで行う地域連携プロジェクト——海をベースに三陸各地の地域アイデンティティを再構築し、地域に希望を育む人材を育成するという文理融合型の取り組み——です。3年目を迎えたわれわれの活動や地域の取り組みなどを紹介します。

## やっぱキャンプは冬っしょ：第1回三陸マリンカレッジ開催

北川貴士  大気海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター 准教授

近年、合宿形式で最先端の科学を体験する「サイエンスキャンプ」が各地で行われるようになり、当センターでも思っていました。ただ、夏にやるのはありきたりでつまらない。やるなら三陸の海の幸が旬の「冬っしょ」。ということで、12月26、27日の1泊2日の日程で「第1回三陸マリンカレッジ」を岩手県沿岸広域振興局との共催で行うことになりました。コロナ禍になってしまい、参加してくれるものかと心配しながらの募集だったのですが、幸い山田町、釜石市、大船渡市から中学1～3年の合計6人が参加してくれました。



初日の26日は、はじめに参加者が自己紹介がてら事前に与えられた課題についての発表を行いました。その後、近年不漁続きのアワビについて、マダコに食べられるメカニズムを探る実習を行いました。参加者は、早川淳助教の指導、大槌高校はま研究会のサポートのもと、アワビの貝殻に残されたマダコの捕食痕を探しました。実習の後、海上保安庁・釜石海上保安部・阿部富二次長に海の安全についての講義をしていただきました。夜は当センターの宿泊棟でアワビを釜石市在住のシェフ・佐藤研也さんに調理していただき、皆で頂きました。

27日は、佐藤さんに調理していただ

いた沿岸の特産品「あらまきざけ」を朝食に頂きました。午前中の実習では、あらまき作りには欠かせない「塩」作りを行いました。吉村健司研究員の指導のもと、参加者の居住地である大船渡、釜石、山田から汲んできた海水を用い、沿岸部で伝統的に行われている海水を煮詰める方法で作りました。火加減が難しく、手間がかかる作業だったようです。手塩をかけて作った塩の「舌に広がるじわっとした感覚」「鮮烈なおからさ」など、汲んできた場所による味の違いを体感してもらいました。その後、参加者各自の関心にもとづき、学習テーマを決めて終了となりました。参加者はそれぞれのテーマでセンター教員のサポートのもと調べ学習を進め、3月に釜石市で教育や漁業の関係者に学習成果を発表する予定です。



今回のマリンカレッジ。宿泊棟を含むセンターの施設を活用して「海と希望の学校 in 三陸」の一環でキャンプを行

アワビの貝殻に残されたマダコの捕食痕を探す参加者



たいと考えていた我々と、「希望郷いわて」を目標に掲げ、次代の三陸を担う人材育成を進めたいという岩手県の思惑が一致し、海上保安庁をも巻き込んだ官学一体のイベントとなりました。それぞれの組織が持つ強みを生かし、充実した内容を参加者に提供できたかと思っています。第2回も乞うご期待。

### 海の安全についての講義



朝食の三陸特産のあらまきざけ。密をさけての食事となりました

### 塩作りの実習に取り組む参加生徒（左）とサポートの大槌高はま研生徒（右）



「海と希望の学校 in 三陸」動画を公開中→ YouTube サイトで [海と希望](#) と検索！

制作：大気海洋研究所広報室（内線：66430）



シリーズ 第31回  
**連携研究機構**

高齢社会  
 総合研究機構

の巻



話／機構長  
 飯島勝矢先生

## 日本全国の高齢者を健康長寿に!

——もう15年も活動されているんですね。

「2006年に寄附研究部門として発足し、2009年に総長室総括委員会の機構となり、昨年4月に連携研究機構となりました。私は2011年に東大病院の高齢者医療部門から参画し、4月から4代目の機構長です」

——ジェロントロジー＝老年学、でよいですか。

「「老人」のgerontと「学問」のlogyの造語で、総合老年学と位置付けています。日本では分野別の「老」研究はあっても横断的なものは珍しく、米国でこの分野に長く関わってきた秋山弘子先生が東大に導入したのが先駆けでした。社会の中で課題解決型実証研究を行うのが我々の特徴です。①地域就労②フレイル（虚弱）予防③生活支援④医療・介護連携⑤情報システム整備⑥AIやロボットによる支援⑦まちづくりと7テーマを設定。たとえば②では71自治体と連携し、全体では約100地域で実証研究が進行中です。企業との連携は、緩やかな「ネットワーク」、グループワークを通して老年学を深める「アカデミー」、地域実証フィールドを使う個別共同研究の3段階。イオン、キューピー、サンスター、ハウスなど約50社と連携しています」

——たとえばイオンとはどんな取組みを?

「元気な高齢者を「フレイルサポーター」に認定して住民のフレイルチェックを地域の公民館などで行う活動を5年前から続けてきたんですが、これをモール内の広場で展開しています。サポーターがお客さんのフレイル指標を測定する隣に店舗を設け、フレイル予防に繋がる提携企業の商品を並べると、非常に反応がよく、企業側はシニア層のモニタリングができます。皆が喜び誰も損しない仕組みが確立されています」

——フレイルサポーターは何人くらいいますか。

「2000人ほどです。自治体はフレイルチェックを正式業務と捉え、サポーターに黄緑の揃いのシャツを支給しています。全国の高齢者を健康長寿にという使命感を強調したことで、こうしたボランティア組織では少なくなりがちな男性が3～4割を占めているのが特色。IOGの声掛けで各自治体が競い合いながら健康長寿のまちづくりを進めています」

「コロナ禍の前後で比べると、高齢者の「コロナフレイル」現象が判明しました。



東京大学 高齢社会総合研究機構  
 INSTITUTE OF GERONTOLOGY, THE UNIVERSITY OF TOKYO

現役世代と逆に高齢者は長い自粛生活で痩せていました。筋肉が落ち、会話が減って咀嚼の力も落ちる。現役世代は自分だけでも鍛えられますが、高齢者は地域の支援がないと難しい。工夫して地域の活動を止めないことの価値を政策に反映させたいと思っています」

UTokyo 第24回  
**バリアフリー最前線!**



熊谷晋一郎室長が  
 取材原稿で伝える  
 障害研究の現場①



## 周縁から“普通”を問う

シェイクスピア作品を紹介 総合文化研究科  
 するテレビ番組に魅了された 清水晶子 教授の巻

子ども時代の清水氏は、やがて文庫でもシェイクスピアを読むようになる。また中高一貫の女子校時代に食べ吐きを経験したことで、欲望や身体のままならなさを知ったという。東大に入学すると、キャンパスのあちこちで「東大女子は見た目が悪い」等の会話が繰り返されていた。氏は、こうした日常的な違和感からフェミニズムに関心をもつようになった。

シェイクスピア研究をしようと文学部英文科に進学。少年俳優のみの時代にどうジェンダーが演じられたか、同性愛や異性装のキャラクターが観客にどう受容されたかなど、英語圏で盛んにフェミニズム批評やクィア批評が行われはじめた時期だった。英国留学を経て、シェイクスピア研究からフェミニズム理論・クィア理論へと研究の軸足を移す。

女らしく振舞え、異性を欲望せよ、生下時に割り当てられた性別を受容せよ——身体の感じ方や使い方、性や欲望の在り方について、私たちは様々な規範に縛られている。フェミニズム理論・クィア理論は、規範から排除される人々を対象化せず、周縁化された当事者の立場から“普通”を逆照射するアプローチである。

氏が危惧するのは、中絶・避妊の権利、同性婚などLGBTの権利、ジェンダー教育・研究などに反対する、Anti-Gender Movement（以下、AGM）である。北京女性会議に反発したカトリックにルーツを持ち、経済格差に苦しむ多数派の不満を燃料に、宗教右派や右派ポピュリズムを巻き込み大きな潮流となったAGMでは、性・ジェンダー・家族などのトピックが立場を超えた接着剤として機能し、女性や少数派の権利を擁護するグローバルエリートが自分たちの慎ましい家族観を脅かしていると批判する。

AGM同様、自らの価値観や慣行を不問に付し、そこを統合的な効果を示さなければダイバーシティやインクルージョン（以下、D&I）を主張しにくい雰囲気は大学にも存在する。しかし氏は「多数派が居心地のよさを手離すことなしに、D&Iは実現しない」と述べる。エリートと少数派を標的とするAGMが吹き荒れる中、大学は率先して自らの“普通”を問い直す必要がある。

バリアフリー支援室 ds.adm.u-tokyo.ac.jp

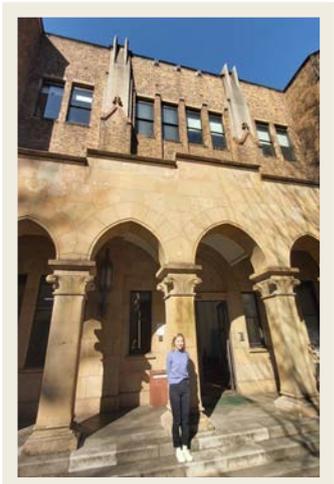
## ワタシのオシゴト 第177回

RELAY COLUMN

工学系・情報理工学系等  
財務課調達チーム

佐藤 祐子

## 極寒でもいい



最初の配属先、素敵建築列品館

チームは部局に関わる調達に携わり、私は主に大きな額の契約をします。東大の中では大きい部局で、予算規模も大きく調達の件数や金額は相対的に多いのですが、意外に面白いのは各研究室からの細々した伝票で、これも研究関連なのか！というものがたまにあります。

正門すぐの列品館はとてもいいです。地に足つけている様子。窓から見える木。明かりの灯る夕方。極寒の一階財務課。同僚の撮ってほしい写真は空の青色が透き通る日で、構えがより立派な感じ。

大きい部局で財務に携わる機会を頂き、周りの皆様の教えを多めに請うことができ、髪色も自由にさせて頂けます。皆様の優しさを見習い、仕事をしていけたらと思います。

地元北九州のかしわ飯  
すごく大きい食べたい

得意ワザ：玉ねぎの高速よそ見薄切り

自分の性格：つめが甘い

次回執筆者のご指名：伊藤直生さん

次回執筆者との関係：同期

次回執筆者の紹介：やさお

## デジタル万華鏡

東大の多様な「学術資産」を再確認しよう

第20回

人文社会系研究科  
教授

福井 玲

## 小倉文庫の朝鮮本

東京大学文学部所蔵の「小倉文庫」には、戦前、京城帝国大学朝鮮語科および東京帝国大学言語学科の教授をつとめた小倉進平（1882-1944）の蔵書が収蔵されている。その中で最も著名なのは15世紀から20世紀初頭に至る時期の朝鮮本である。

朝鮮では15世紀に初めて自分たちの言語を正確に表記できるハングルという文字体系が作られた。これを用いて記録された資料は、中世から近代の朝鮮語を知るための最も重要な資料となる。その多くは勿論韓国・北朝鮮の図書館や博物館に収蔵されているが、朝鮮半島以外の世界各国の図書館にも散在し、小倉文庫は朝鮮半島以外では質・量ともに最も豊富なものである。

朝鮮本の中でもハングル資料となる文献の特徴は、漢文とその翻訳をとともに載せる所謂「諺解」という文体のものが多い、典籍として中央で公に刊行されたものが多い、15世紀には仏教書が多い、伝統的な木版だけでなく、朝鮮で高麗末(14世紀後半)から発達した金属活字を用いたものも少なくない、などがあげられる。そのうち2点を紹介しよう。



図版1 『牧牛子修心訣』の一部。6行目までが漢文、6行目途中から双行で翻訳文が続く。(東京大学文学部所蔵)



図版2 『分類杜工部詩』巻17の一部。金属活字の印刷面の特徴がよく分かる。(東京大学文学部所蔵)

図版1は、1467年刊行の『牧牛子修心訣』で、高麗時代の著名な僧知訥が漢文で著わした『修心訣』を翻訳したもの。朝鮮第7代の国王世祖が仏書刊行のため設置した刊経都監から木版で刊行された。図版2は、1481年刊行の『分類杜工部詩』(通称『杜詩諺解』)の巻17で、唐の詩人杜甫の詩を翻訳したもの。1455年に鑄造された乙亥字という金属活字が使われている。これらを含め、小倉文庫の444点の資料がデジタル化され公開されている。

<https://iif.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/repo/s/ogura/page/home>

## インタープリターズ・第162回 バイブル

生産技術研究所・情報学環 准教授  
科学技術インタープリター養成部門

川越至桜

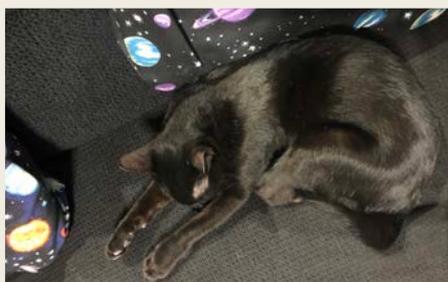
### オンラインでのコミュニケーション

最近、縁あって保護猫と同居することになった。猫は昼夜を問わず、私がパソコンに向かっていいる間は、こちらの様子を窺いながらも邪魔をすることなく寝ている。しかし、パソコンを閉じ、背伸びをしたり立ち上がった途端、熱い視線を送り、遊んでもらうまで目を離さない。完全にロックオンである。互いに言葉は通じないが、仕事の邪魔をしないよう猫は猫なりに空気を読んでいるようである（飼い主の思い込みがある点をご容赦いただきたい）。

さて、昨今の新型コロナウイルスの影響で、会議や授業に加え科学技術コミュニケーション活動もオンラインとなった。これまで、科学技術をテーマにした様々な実験教室や中高生向けワークショップを実施してきた。対面であれば参加者との会話という言語的な情報に加えて、参加者の様子を見ながら「もう少し説明が必要かな」、「テンポを上げて大丈夫かな」という雰囲気を感じ取りながら、つまり、非言語的な情報も大切にしながら取り組んできたつもりである。しかし、オンラインになるとそれが途端に難しく感じられる。

科学技術コミュニケーションに限らず、対面でのコミュニケーションの場合、言語から得られる情報に比べて、非言語（視覚や聴覚）から得られる情報の方が多いたとも言われている。しかし、画面越しの場合は、非言語情報が伝わりにくいため、それを補うために言語による情報を増やす必要が出てくる。つまり、対面以上に言語化することとなり、結果として、一つの事柄を伝えるのに、より時間を要する傾向となる。

ポストコロナでも、オンラインの活用は必須となっているだろう。これからのコミュニケーションは、言語化する能力に加えて、オンラインでも非言語情報を伝え、読み取るスキルも必要になるのかもしれない。この非言語情報に対するスキル、猫との意思疎通にも応用できないだろうか。



同居することになった保護猫

科学技術インタープリター養成プログラム  
science-interpretor.c.u-tokyo.ac.jp

## 蔵出し! 文書館

ぶんしょかん

The University  
of Tokyo  
Archives



第30回

収蔵する貴重な学内資料から  
140年を超える東大の歴史の一部をご紹介します

### いざ、上棟式!

東京大学大講堂の建設の歴史は、100年前の大正10年に始まります。安田善次郎の寄附による事業だったため、「安田講堂」と呼ばれるようになりました。大正11年12月着工、翌12年2月に地鎮祭が執り行われますが、同年9月1日の関東大震災により罹災、中断および建設変更といった難題を経て、大正13年10月25日、上棟式を迎えます。



村上本建 正面

写真帖『安田家寄附東京帝国大学大講堂上棟式記念』(F0025/S03/0008)には、古在由直総長や安田家関係者、本学職員が臨席した上棟式当日の写真が貼り込まれています。右手前に見えるのは雅楽器の鞆鼓。他の写真にある楽太鼓などとともに、神前の儀式に用いられたものと思われます。中央には、キリッと半纏を着た鷹の方々が木遣をうたう姿。工事の安全を願い、声は天に向かって響き渡ったことでしょう。

当館が所蔵する、大講堂の建築掛長でもあった内田祥三の関係資料のうち、『東京帝国大学大講堂建築経過概要』(F0004/A/8/7)によると、この日は「晴天」「午時一時開始 午後二時三十分荘厳祀ニ終了」とあるほか、「木遣音頭」や「投餅」(おそらく餅撒きの儀式)についても記載があります。



式後の饗応は、筆者も愛飲する某社★印のビールで祝杯をあげたこと

がこの写真から判明! くつろぎの表情が印象的です。

参考: 藤井忠介ほか編『東京大学大講堂(安田講堂)改修工事報告書』2016年

(学術支援職員・星野厚子)

東京大学文書館  
www.u-tokyo.ac.jp/adm/history/

**トピックス** 全学ホームページの「UTokyo FOCUS」(Features, Articles) に掲載された情報の一覧と、そのいくつかをCLOSE UPとして紹介します。

掲載日	担当部署・部局	タイトル (一部省略している場合があります)
1月13日	グローバルキャンパス推進本部	第5回東京大学-清華大学 戦略的パートナーシップ合同シンポジウム
1月13日	カブリ数物連携宇宙研究機構、物性研究所、宇宙線研究所	第5回「やっぱり物理が好き! ~物理に進んだ女子学生・院生のキャリア~」を開催
1月15日、29日	広報戦略本部	ゲノム編集技術で拓く希少疾患治療薬への道   起業家の原点は東大在学中のサークル活動 / Entrepreneurs 01-02
1月18日	医学部附属病院	【医療リアルワールドデータ活用人材育成事業】令和3年度履修生公募
1月20日	総合文化研究科・教養学部	生きた細胞内で生体分子の磁気感受性を直接観測
1月21日	本部経理課	「第6回サステナブルファイナンス大賞」表彰式が開催され「東京大学 FSI 債」が大賞を受賞
1月25日	情報基盤センター、本部情報戦略課、本部学術振興企画課	データ活用社会創成シンポジウムが開催されました
1月28日	本部入試課	令和3年度大学入学共通テスト(2)及び追試験の試験場案内について
2月1日	新領域創成科学研究科	【社会人の方へ】システム思考の基礎と実践を学ぶ—大学院科目等履修生募集—
2月1日	本部情報戦略課	【注意喚起】東京大学総長を装った迷惑メール(なりすまし)にご注意ください。
2月2日	本部広報課	GABで育んだ国際的なネットワーク/総長室だより第29回
2月3日	本部入試課	令和3年度第2次学力試験出願状況速報
2月3日	広報戦略本部、先端科学技術研究センター	困りごとを抱えている当事者自身が専門家となり、問題を解消する。/ UTOKYO VOICES 096



## EVENTS

## 自宅でも簡単! 朝と昼のオンライン・エクササイズ

(相談支援研究開発センター)



時間 (Time)	月 (Mon.)	火 (Tue.)	水 (Wen.)	木 (Thu.)	金 (Fri.)	土 (Sat.)
朝9時~ From 9 am	サーキット トレーニング Circuit training 30分	ヨガ (LIVE) Yoga 40分	サーキット トレーニング Circuit training 30分	ゆるヨガ (LIVE) Yuru yoga 40分	サーキット トレーニング Circuit training 30分	ピラティス (要タオル) Pilates 40分
交流会 exchange meeting	★交流会の有無は、開催前にアナウンスします! (30分予定)					
昼13時~ From 13 pm	サーキット トレーニング Circuit training 30分	ピラティス (要タオル) Pilates 40分	サーキット トレーニング Circuit training 30分	ピラティス (要タオル) Pilates 40分	サーキット トレーニング Circuit training 30分	ピラティス (要タオル) Pilates 40分
交流会 exchange meeting	★交流会の有無は、開催前にアナウンスします! (30分予定)					

●「配信スケジュール」は変更の可能性があります。 Schedule may be subject to change.

<https://dcs.adm.u-tokyo.ac.jp/top-info/4405/>

相談支援研究開発センターでは、自粛生活のなかでの生活リズムの崩れを予防するために、自宅できるオンラインエクササイズ(ヨガ・ピラティス・サーキットトレーニング)を、東京大学運動会・御殿下記念館スポーツ相談室・スポーツ先端科学連携研究機構のご協力を得て実施中です。

対象: 東京大学の学生(教職員の方もご参加いただけます)

日時: 2021年2月・3月中(予定)

曜日: 月曜~土曜(祝日を除く)

時間: ①午前: 9時~ ②午後: 13時~(変更の可能性があります)

内容: (A) 初心者(軽め) & ウォーミングアップ 10~15分

(B) 中・上級者メイン+クールダウン 20~25分

参加方法: 左記URLから詳細を確認の上、ZOOMリンクよりご参加ください(※ECCSのアカウントが必要)。申込不要、参加費無料。画面オフ・ミュートのまま参加できます。一部の日程ではエクササイズ終了後にピアサポートルームサポーターによる学生交流会等も予定しています。



## EVENTS

## 科学技術コミュニケーションの16年を考えるシンポジウム(教養教育高度化機構)



3月15日(月)13時から、「科学技術コミュニケーションの16年—東日本大震災10年とコロナ禍のなかで—」をテーマにシンポジウムを開催します(Zoomウェビナー)。2005年から政府の振興政策で種の時かれた日本の科学コミュニケーション教育は、東京大学では後期教養教育の一環に位置づけられるなど、単なる科学研究のアウトリーチにとどま

らない広がり・意味を持つようになってきました。コロナ禍で科学と社会の関係、科学コミュニケーションのあり方が問い直されるなか、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の経験も踏まえながら、この16年を振り返り、今後を展望します。第1部は「歴史と成果」、第2部は「東日本大震災とコロナ禍」、第3部はパネルディスカッション。黒田玲子先生、藤垣裕子先生、廣野喜幸先生と科学技術インタープリター養成プログラムに縁の深い皆さんが登場します。

<http://www.komex.c.u-tokyo.ac.jp/archives/2633>

※「学内広報」では広告掲載を受け付けていません。出稿を検討したいという皆様のお問い合わせをお待ちしております。↓本部広報課（03・5841・2031）



CLOSE UP

清華大学との合同シンポジウムを6週にわたって開催 （グローバルキャンパス推進本部）



関村直人 副学長による講演の様子

昨年11月11日から約6週間にわたり、第5回 東京大学 - 清華大学戦略的パートナーシップ 合同シンポジウムをオンラインで開催しました。12月25日に行われた総括セッションでは、新型コロナウイルス時代の教育とグローバルな連携をテーマに、清華大学から楊斌 (YANG Bin) 副学長、本学から関村直人副学長による基調講演が行われ、両大学の連携が国際規模の課題解決への貢献につながることに期待が述べられ

ました。その後、期間中に実施された、生物工学、自動車工学、人文社会科学、材料工学、応用物理、ものづくり工学など9つのオンラインワークショップやセミナーについて、両大学の教職員から報告がありました。報告の後には、来年3月に開催予定の学生交流イベントの概要が紹介されました。このイベントは両校の学生が両国の学術、文化に関する理解を深めるよい機会になるものと期待されます。



CLOSE UP

物理を学ぶ学生が先輩に学ぶ講演会を開催 （カブリ数物連携宇宙研究機構、物性研究所、宇宙線研究所）



講師を務めてくれた4人の皆さん

昨年11月7日、カブリ数物 (Kavli IPMU) と物性研究所、宇宙線研究所の主催により、物理を学ぶ女子学部生及び女子大学院生の支援を目的に「やっぱり物理が好き！～物理に進んだ女子学生・院生のキャリア～」を開催しました。物理学科出身の様々な講師の方をお招きしてキャリアパスを提示すると共に、参加者のネットワーク作りや物理学分野の魅力を伝える機会として行われてきたもので、今年が第5回目と

なります。今回は全面オンラインでの開催でした。「国際大型加速器実験と海外生活と子育てと共働き」(下村真弥さん)、「量子ビームで見る物質のミクロな世界」(田端千紘さん)、「美大で物理！一般教養の教員というキャリア」(宮原ひろ子さん)、「意外と分らない本当に好きなこと」(福岡千枝さん)の4つの講演が行われ、質問会と各研究所の紹介も行われました。東北、関西、九州からも含め、18名の参加者がありました。



CLOSE UP

データ活用社会創成シンポジウムを開催 （情報基盤センター、本部情報戦略課、本部学術振興企画課）



開会挨拶を述べる総長

未来社会協創推進本部データプラットフォーム推進タスクフォースが主催する「データ活用社会創成シンポジウム」が昨年12月25日にオンラインで開催されました。Society5.0が目指すデータ利活用の恩恵をだれもが安心して享受できるインクルーシブな社会の実現に向けたデータ活用を推進する先進的な取り組みについて、幅広い分野の専門家による講演を通してデータ活用社会のあるべき姿について議論するもので、学内外から400名を超える参加がありました。

五神総長の開会あいさつに続き、5つのテーマ（教育データ・コロナ下の大学、データ基盤、医療データ・COVID-19、空間情報・モビリティ、社会利用・産学連携）の下、11名の専門家による講演が行われました。オンライン参加者からの質疑応答・コメントを交えた活発な議論が行われ、東大をはじめとする9大学2研究機関で共同運営するデータ活用社会創成プラットフォーム「mdx」への期待も講演者、参加者双方から寄せられました。

コロナ禍 vs 東大 Now 新型コロナウイルス情報WG発

第3回／コロナ禍下の研究・教育のアクティビティ

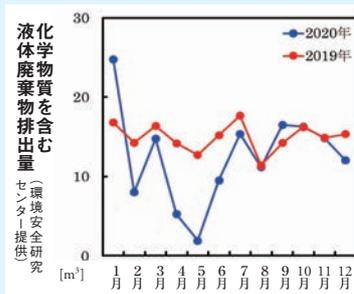
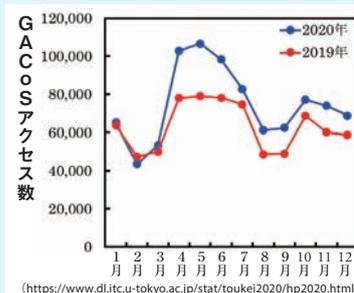
中国から世界に広まったコロナ禍は、学問研究・大学教育のあり方にも深刻な影響を与えました。東京大学の研究・教育のアクティビティを、二つの指標でみてみましょう。

上のグラフは、本学の学術情報ポータルサイトGACoSのアクセス数の推移です。2019年と比べると、3月までがほぼ同様に推移しているのに対し、緊急事態宣言発令下の4、5月をピークとして、Sセメスターは著しく高くなっており、以後も常に前年を上回っていることがわかります。利用頻度は学問分野や教育課程によって異なりますが、講義の全面オンライン化が漸行された時期に、個々の研究や学習も素早くオンラインに切り替えて

続けられていることが読み取れます。

下のグラフは、学内における化学物質を含む液体廃棄物の排出量の推移です。理系の実験系に限られますが、キャンパス内での活動量を反映する数値で、こちらは逆に4、5月に著しく低下しています。しかし、活動制限レベルが引き下げられた6月以降は急速に回復して例年と大差なくなっており、適正な抑制と着実な回復が見取れます。

世界が未知の病禍に見舞われた2020年でしたが、その中でも、大学の使命である研究・教育は確実に継続されていました。状況はなお厳しいですが、前進の努力は変わりません。(杉山清彦／総合文化研究科・広報室副室長)





## オンライン時代の建築空間の豊かさについて

2020年4月からはじまったオンライン授業の経験もそろそろ1年となる。その利便性と限界の両面もよく見えてきた1年であった。今後ますます、その長所を伸ばし短所を補う努力がなされていくことだろう。それはサイバー・フィジカルの融合とか、DX (Digital Transformation) とか呼ばれている試みである。

建築学の専門家という立場から、筆者はいま、圧倒的なスピードで技術革新が進むネットワーク上のCyberspaceに対応して、物理空間 (Physical Space) がどのように変容 (transform) していくのか、ということに関心を抱いている。

Zoomの講義や会議に没入するためには、目の前の2次元ディスプレイ上の視覚情報とヘッドフォンから聞こえてくる音声に集中し、自分自身がいま存在しているはずの3次元空間 (居室) を完全に無視する必要がある。ときおり、Cyberspaceの中に完全に意識を集中させた講義や会議を終わらせると、その疲れ方は並大抵のものではない。その時間、人は視覚と聴覚以外の情報を遮断し、椅子とキーボードとマウスのみが物理空間との唯一の繋がりとなっているのだ。

こうした体験を繰り返す中で、多くの人々は、自宅や職場の物理的な環境に改めて目を

向けるようになった。この状況のなかで自宅や職場の物理的環境に必要となるのは、居心地の良さや、その場所への愛着といった、きわめて感覚的な側面である。だがじつは、モダニズム以来の建築理論は、建築やインテリアの物質性がもたらす愛着やあたたかみの側面ではなく、機能性や合理性ばかりを重視してきた。だがいまやCyberspaceの機能性や合理性は、Physical Spaceのそれを軽々と超えてしまったのだ。

だからこそ、DXが進む未来的な住環境、教育環境、職場環境における物理空間が目指すべきは、無機質で未来的なSFのような空間ではないように思うのだ。むしろ人間的であたたかみがあり、居心地の良い空間という基本に立ち返ることが重要だと思う。

東大生たちのことを考えても、わざわざ大学に来て授業を受ける機会には、これぞ東京大学、というAcademic Atmosphereを体験して欲しい。歴史と伝統に裏打ちされた東京大学のキャンパスでの体験こそが、学生にとっても教職員にとっても、帰属意識と母校愛の源泉となると思うのである。

加藤耕一  
(工学系研究科)

